

各種連用修飾成分の出現順位

—小学校国語教科書の分析事例から—

百瀬 美里

1. はじめに

「夕顔の花がゆっくり静かに咲く。」という文を見て、ふと、「ゆっくり」と「静かに」は順番が決まっているのだろうか、という疑問を抱いた。そういえば「どうか、一晩泊めさせてください。」とは言っても、「一晩、どうか泊めさせてください。」とは普通は言わないようだ。「ゆっくり」「静かに」「どうか」「一晩」の類は、一般に連用修飾成分と呼ばれているが、これら連用修飾成分同士に何らかの出現順位が決まっているのかどうか、それが本研究の出発点である。

2. 連用修飾成分の下位分類

連用修飾成分の下位分類については、仁田(1993)、仁田(2002)の論述に基づいて、考察を進めることにする。そこで、まず、仁田氏の下位分類について確認しておく。

仁田氏は、連用修飾成分をまず大きく「言表事態修飾語」と「言表態度修飾語」の二つに分ける。「言表事態修飾語」は、事態の内側から事柄を述べるための成分である。「言表態度修飾語」は次のような5種類に下位分類されている。なお、仁田氏はそれぞれの成分を「～の副詞」「～修飾語」と呼んでいるが、本研究では仁田氏の論述の引用を除いて、「～の修飾成分」と呼ぶことにする。

〈時間関係の修飾成分〉

時間関係の修飾成分は少し複雑である。時間的あり方に関わる成分は、「まず大きく、〈時の状況成分〉と〈時間関係の副詞〉とに分けられる。〈時の状況成分〉とは、事態の外的な時間的位置づけ、言い換えれば、時間軸上における事態の出現・存在位置を指し示すものである。

それに対して、〈時間関係の副詞〉は、事態そのものの有している時間的性格から引き出されたものとしての、時間の中での事態の出現や展開や存在のありようという、事態の内的な時間的特性に関わる」成分であるが、それらはさらに細分されているのである。(本研究では、このことは、必要に応じて触れるにとどめる。)

つぎの日、日がさしてくると、またひらきます。(時の状況成分)

周りを見回しながら、しばらく考えました。(時間関係の副詞)

〈頻度の修飾成分〉

頻度の修飾成分は、「この喫茶店は、学生時代にたびたび訪れた場所です。」のような、「ある一定の間隔をおいて生起する事態の回数を、ある程度性・多寡性をもって差し出したものである。事態の生起・存在の回数(そのもの)を表した」成分である。

〈程度量の修飾成分〉

程度量の修飾成分は、「あの建物はとても素晴らしい。」のような、「基本的・中心的な働きは、属性(質)や状態の帯びている程度性に対して、その度合いに言及することによって、属性や状態のありようを限定し特徴づける」成分である。

〈様態の修飾成分〉

様態の修飾成分は、「ハアハアと息を切らして走る。」のような、「事態の内側から、さらに言えば、事態の展開過程や実現の局面に存在したり伴ったりしている諸側面を取り上げ、そのありように言及することによって、事態の実現・成功のあり方を特徴づけた」成分である。

〈結果の修飾成分〉

結果の修飾成分は、「雨が降ったせいで、びしょびしょに濡れた。」のような、「動きが実現した結果の局面を取り上げ、動きが実現した結果の、主体や対象の状態のありようについて言及した」成分である。

一方、「言表態度修飾語」は、「モダリティ的な側面を表現するもの」で、以下の3種類に細分されている。

〈評価的な態度を表す修飾成分〉

評価的な態度を表した修飾成分は、「残念ながら、明日学校は休み

です。」のような、「話し手や書き手自身の事態に対する評価を表した」成分である。

《程度性を伴った推し量りを表す修飾成分》

程度性を伴った推し量りを表す修飾成分は、「たぶん明日は雨が降るだろう。」のような、「話し手のある事柄に対しての推し量りを表した」成分である。

《聞き手への促しを表す修飾成分》

聞き手への促しを表す修飾成分は、「みなさん、どうぞ来てください。」のような、「ある事柄についての聞き手への伝達的態度のあり方を表した」成分である。

3. 調査結果

以下、同じ述語を修飾する成分が二つ以上接続した用例について、上述の各種連用修飾成分がどのような順位で出現しているか、考察することにする。調査の対象は光村図書(2005)、東京書籍(2003)が出版した小学校国語教科書であるが、収集した用例には、大別して、「同じ種類の成分が接続する用例」と「異なる種類の成分が接続する用例」の二種類があった。

【表 1】

	同じ種類の成分が接続する用例	異なる種類の成分が接続する用例
光村図書	67 例	65 例
東京書籍	39 例	65 例
合計	106 例	130 例

4. 異なる種類の成分が接続する用例の考察

同じ種類の成分が接続する用例については別に考えることにして、以下、異なる種類の連用修飾成分が接続するものについて考察する。

4.1 言表態度修飾語

言表態度修飾語は〈評価的な態度を表したもの〉〈程度性を伴った推し量りを表したもの〉〈聞き手への促しを表したもの〉に細分されて

いるが、今回の調査ではその3種の成分同士が接続するものはなかった。したがって、それらの成分同士を直接に比較して出現順位を考察することはできない。しかし、これらと言表事態修飾語とが共存する用例が22例あったので、以下それらについて考察することにする。

この22例には、言表態度修飾語が前に位置するものが17例あり、後に位置するものが5例ある。このことから、一応は言表態度修飾語が各種の言表事態修飾語よりも前に位置すると考えていいようである。

1. ぜひ、いっしょに考えてみてください。
2. とにかく早くいらっしゃい。

しかし、そうすると、言表態度修飾語が後に位置するもの(5例)の存在が問題になる。

時間関係の修飾成分+評価的な態度を表す修飾成分(3例)

3. そして今日、まりちゃんは、本当に帰ってきた。
4. 少年は、今、どうしても海を見たいのだった。
5. わたしは、今度こそ、ほんとうにヒロ子のお母さんになります。

頻度の修飾成分+程度性を伴った推し量りを表す修飾成分(2例)

6. なにかをかっても、まいばん、きつといってやるんだ。
7. また、きつと取れるよ。

そこで、上記の5例について検討してみると、それらには際立った特徴がある。まず、5例に共通しているのは、前に位置する修飾成分が時間の枠組み(範囲)を表していることである。「時間関係の修飾成分」である例3~5は言うまでもないが、「頻度の修飾成分」の場合も何ら変わりはない。例えば、例6の「まいばん」は毎日毎日の夜の時間という意味を表している。

つまり、これら5例は時間の枠組みを表しているのであって、その点でこれらは仁田氏の下位分類を修正して、仁田氏自身が「事態の外的な時間的位置づけ、言い換えれば、時間軸上における事態の出現・存在位置を指し示すものである。」と説明している、〈時の状況成分〉に含めるべきであろう。

要するに、この種の例は、「時間的位置づけ」をまず示し、後に位置

する成分がその中で「評価的な態度や程度性を伴った推し量り」を表していると考えられるのである。

この種の例のもう一つの特徴は、前に位置する修飾成分と後に位置する修飾成分を入れ替えることが可能であることだ。例えば、例3は「そして今日、まりちゃんは、本当に帰ってきた。」という順序になっている。これを「そして本当に、今日まりちゃんは帰ってきた。」の順に変えても、何の問題もない。

もう一つ、「評価的な態度を表す修飾成分」「程度性を伴う推し量りを表す修飾成分」の他に、言表態度修飾語には、もう一つ「聞き手への促しを表す修飾成分」があるが、今回の調査ではこの種の成分が後に位置するものは見当たらなかった。その点で、聞き手への促しを表す修飾成分が他の成分の後に位置することはない、とおおよそ考えてよいだろう。

さて、以上の考察から見ると、言表態度修飾語の中の評価的な態度や程度性を伴った推し量りを表す修飾成分と「時間的位置づけ」を示す(時の状況成分)はほぼ同じ順位に位置すると考えられる。そして言表態度修飾語と言表事態修飾語では、前者が前に位置し、言表態度修飾語の中では聞き手への促しを表す修飾成分が最も前に位置すると考えるべきだろう。それを図示すると次のようになる。

言表態度修飾語(聞き手への促し→評価的な態度、推し量り)

→ 言表事態修飾語

4.2 時間関係の修飾成分

時間関係の修飾成分を含む用例は56例ある(言表態度修飾語と接続したものを除く)。そのうち、時間関係の修飾成分が前に位置するものが44例、後に位置するものが12例である。そのことと、前項で触れた「言表態度修飾語」との位置関係から見て、時間関係の修飾成分は言表事態修飾語の中で最初に位置すると考えていだろう。

8. 青いけむりが、まだ、つつ口から細く出ていました。

9. 司会は、初めに、討論の全体の流れが分かるようにに説明する。

しかし、その点では、時間関係の修飾成分が後に位置するもの(12

例)の存在が問題になる。

その第一は、時間関係の修飾成分、頻度の修飾成分の順に出現するもの(6例)に対して、その逆になるもの(3例)の存在であるが、この例については後で触れることにする。

次は、時間関係の修飾成分、程度量の修飾成分の順に出現するもの(8例)に対して、その逆になるもの(2例)の存在である。

時間関係の修飾成分+程度量の修飾成分(8例)

10. ①十月なのに、まだとても暑い。

11. そのおかげで、今年もりっぱな麦がたくさんできました。

程度量の修飾成分+時間関係の修飾成分(2例)

12. 同じようにして、二本ずつ段々分かれていくえだをかいて、
そのたびに、細くみじかくしていきます。

13. 読む速さも、練習とともにどんどんまして、点字の図書館から
次々に本を借りて読みました。

まずは、用例数(8対2)から見て、時間関係の修飾成分が先に位置すると考えてよい。だが、注目されるのは、その2例における時間関係の修飾成分「段々」「どんどん」が仁田(2002)の下位分類では、〈時間の中における事態の進展〉に該当することである。例えば、例12、13では、これらは、「二本ずつ→段々」「練習とともに→どんどん」のように、前に位置する程度量の修飾成分は、後に位置する〈時間の中における事態の進展〉の程度がどのように進んでいるのかをより詳しく表現する働きをしていることが分かる。

それは、視点を変えて二つの連用修飾成分だけの関係で見ると、「二本ずつ」が「段々」を修飾し、「練習とともに」が「どんどん」を修飾する関係にあると言ってもよいのである。その点で、この種の例で修飾語が被修飾語より前に位置するのは、当然のことなのである。

残るは、時間関係の修飾成分、様態の修飾成分の順に出現するもの(24例)に対して、その逆になるもの(7例)の存在である。

時間関係の修飾成分+様態の修飾成分(24例)

14. 「十、数える間、かげぼうしをじっと見つめるのさ。」

15. すいせんは、いよいよ元気にラッパをふきます。

様態の修飾成分+時間関係の修飾成分(7例)

16. 周りを見回しながら、しばらく考えました。

17. 賢治のように、死後有名になった。

ここでも、まずは、その用例数(24対7)から見て、時間関係の修飾成分が前に位置すると考えるのが自然であろう。しかし、より重要なのは次のことであろう。仁田(2002)は様態の修飾成分を〈動き様態の副詞〉〈主体状態の副詞〉〈節的存在の副詞〉の三つに下位分類しているが、ここで逆の出現順位になっている7例は、その中の〈節的存在の様態の副詞〉に該当するのである。この成分について仁田(2002)は「節的存在—もつとも、従属度の高い、文的度合いの低い小さな節ではある—が、副詞的修飾成分として働いているものである。」と説明している。要するに、他の連用修飾成分よりも長いのである。つまり、例16、17は、成分が長いという別の原理が働いたことによって、出現順位が逆になっているだけなのである。

以上の考察によって、この種の例で、時間関係の修飾成分が後に位置する理由は明らかである。したがって、言表態度修飾語の次に位置し、各種言表事態修飾語の中で一番前に位置するのは、「時間関係の修飾成分」であると言ってよい。

だが、時間関係の修飾成分には一つ大きな問題がある。それは、時間関係の修飾成分の中での〈時の状況成分〉の取り扱いである。

その一つは、先に触れた、頻度の修飾成分、時間関係の修飾成分の順で—つまり、予想される順序(6例)とは逆の順で—出現する3例の問題である。

時間関係の修飾成分+頻度の修飾成分(6例)

18. つぎの日、日がさしてくると、またひらきます。

19. 命あるものは、いつかかならずほろびる運命にあります。

頻度の修飾成分+時間関係の修飾成分(3例)

20. まただんだんに、ありの行列ができていきました。

21. 毎年、少しずつ悪くなり、おとしは、おたがいの国からさむ

らいが出てしずめました。

22. 毎日朝早く、お年よりたちが作業場に集まり、なれた手つきで
稲わらをたばね、細いつなをあみあげていきます。

この3例については前項でも触れたが、前に位置する頻度の修飾成分「また」「毎年」「毎日」が「時間的位置づけ」を表し、後の頻度の修飾成分「だんだんに」「少しずつ」「朝早く」が「時間の中における事態の進展」を表していると考えられる。つまり、「また」「毎年」「毎日」が前に位置して時間的な枠組みを表し、その枠組みの中で「だんだんに」「少しずつ」「朝早く」が「事態の進展」を表すという関係で後に位置しているのである。

こう考えてくると、仁田氏の頻度の修飾成分の取り扱いに疑問が生じてくる。以下、この問題について、考察することにする。

仁田氏は頻度の修飾成分を〈頻度の副詞〉〈度数の副詞〉〈再発を表す副詞〉〈繰り返し期間を表す副詞〉の四つに下位分類している。20と21の例の「また」「毎年」は、この下位分類に従えば「また」は〈再発を表す副詞〉、「毎年」は〈繰り返し期間の副詞〉ということになる。

〈再発を表す副詞〉について仁田(2002)は、次のように述べている。

〈再発を表す副詞〉とは、事態の発生・存在が既にあり、さらにそれに加えて、事態が生起することを表したものである。この種のものが表す事態生起の回数的あり方とは、以前における発生を受けての再発といったものである。(波線引用者)

つまりそれは、「以前」のある時という「時間的位置」から、時を経て、その後のある時に「再発」したその時という「時間的位置」が示されているわけである。

また、〈繰り返し期間の副詞〉についても、

〈繰り返し期間の副詞〉とは、(中略)繰り返し生起する事態の、その繰り返しの単位となる期間を差し出しながら、事態の繰り返しを表すものである。これは、前章で述べた、時の状況成分や時間関係の副詞につながることを有している。(波線引用者)

と述べているとおり、「繰り返しの単位となる期間」を表している。

それは、「時の状況成分や時間関係の副詞につながるころを持つ」というより、むしろ、「時間的位置づけ」を示していると考えられるべきであろう。例えば、21の例の「毎年」は、確かに事態の繰り返しを表現しているけれども、それは「時間軸上における事態の出現・存在位置を示す」という限りでの、繰り返しなのである。

一方、20、21の例で後に位置する時間関係の修飾成分「少しずつ」「だんだんに」の方は、仁田氏の下位分類では〈時間の中における事態の進展〉に該当する。

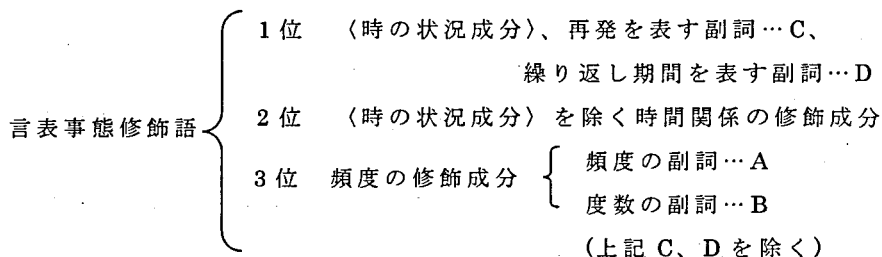
こう考えてくると、この種の用例は、**時間の枠組み(再発・繰り返し)** + **事態の進展**という出現順位として、十分に理解できる。

とすると、仁田氏が頻度の修飾成分としている「また」「毎年」「毎日」の類は、〈時の状況成分〉に移すべきではないだろうか。仁田氏本人も、頻度の修飾成分を論じる中で「これは、前章で述べた、時の状況成分や時間関係の副詞につながるころを有している。」と、再考の余地があることを示唆しているが、語順をもとに考えるかぎり、仁田氏の頻度の修飾成分の中の〈再発を表す副詞〉〈繰り返し期間を表す副詞〉は、〈時の状況成分〉に含めるべきだと考えられる。

もう一つ、仁田氏のいう「時間関係の修飾成分」の中での〈時の状況成分〉の位置づけが、当然のことながら問題になってくる。まず、「時間関係の修飾成分」の中で、〈時の状況成分〉に当たるものには、上記の三例のような逆順は発生しないということである。例20、21、22での後の成分「だんだんに」「少しずつ」「朝早く」は、ともに〈時間の中における事態の進展〉を表す成分なのであって、同じく時間関係の修飾成分に所属するものではあっても、〈時の状況成分〉とは言えないのである。もう一つ、〈時の状況成分〉については、先述した言表態度修飾語と〈時の状況成分〉がほぼ同じ出現順位を占める、という問題がある。

これらから見ると、時間関係の修飾成分の中で、〈時の状況成分〉だけは、その他の時間関係の修飾成分とは違う—それらより前に位置する—と考えるべきであろう。

以上を整理すると、仁田氏の言表事態修飾語の下位分類は次のように修正すべきであろう。(1位、2位…は出現順位)



4.3 頻度の修飾成分

頻度の修飾成分を含むものは、前項で取り上げた時間関係の修飾成分と共存する例(9例)を除いて24例あった。そのうち、頻度の修飾成分が前に位置するものが20例、頻度の修飾成分が後に位置するものが4例である。この出現数からは、頻度の修飾成分は程度量の修飾成分、結果の修飾成分、様態の修飾成分よりも前に位置すると考えてよいだろう。

23. エルフとぼくは、まい日いっしょにあそんだ。

24. くちびるを二、三回静かにぬらしました。

しかし、そのことから言うならば、頻度の修飾成分が後に位置するもの(4例)の存在が問題になる。

様態の修飾成分+頻度の修飾成分(4例)

25. おみつさんはおどろきましたが、言われるままに、またわらぐつを売って、お金を受け取りました。

26. たとえば、だんになっている所では、つまずいて転ばないように、かならず一度止まります。

だが、これらで前に位置する様態の修飾成分は、「節的存在の様態の副詞」である。「節的存在の様態の副詞」についてはすでに触れたが、他の連用修飾成分よりも長いという特徴がある。つまり、ここで問題になった4例でも、長さという別の原理が働いて出現順位が逆になっているのである。

4.4 程度量の修飾成分

程度量の修飾成分を含むものは 13 例あり、そのうち程度量の修飾成分が前に位置するものが 7 例、程度量の修飾成分が後に位置するものが 6 例である。このことから、程度量の修飾成分は、結果の修飾成分、様態の修飾成分の前に位置すると一応は考えられる。

27. 昔の暮らしについて、もっと具体的に知りたと思いました。

28. もう少しくわしく話しましょう。

しかし、そのことから言うならば、程度量の修飾成分が後に位置するもの(6例)の存在が問題になる。

様態の修飾成分+程度量の修飾成分(6例)

29. ふしぎそうに、ちよつと指先でさわってみたいしました。

30. じゅんばんに、となりの人のカードを一まいずつとる。

だが、例 29 で前に位置する「ふしぎそうに」は、長いという特徴を持つ(節的存在の様態の副詞)であって、それによって出現順位が逆になっていると考えてよい。また、例 30 で、述語を中心として描き出される「となりの人のカードを一まいずつとる」という事柄を、さらに外側から詳しく説明するために「じゅんばんに」という成分がその外側に位置すると考えられる。

4.5 様態の修飾成分、結果の修飾成分

結果の修飾成分と様態の修飾成分の出現順位については、今回の調査ではそれほど明らかな傾向が見えてこなかった。そこで、ここでは両者を一括して考察することにする。

結果の修飾成分と様態の修飾成分が接続したものは 19 例あった。そのうち、様態の修飾成分、結果の修飾成分の順に出現するものが 15 例あり、その逆になるものが 4 例である。また、様態の修飾成分、結果の修飾成分の順に出現する例には、例 32 のように、様態の修飾成分が結果の修飾成分を修飾していると考えうる用例も少なくない。

様態の修飾成分+結果の修飾成分(15例)

31. そう思いながら、男は、暑い日ざしの下、一生けんめいはたらきました。

32. 理由と意見が区別できるように、分かりやすく話す。

結果の修飾成分+様態の修飾成分(4例)

33. 元気よくキャアキャア走り回っていました。

34. 上の方や横の方は、青く暗く鋼のように見えます。

これらのことから、両者は同レベルに近いが、相対的には《様態の修飾成分+結果の修飾成分》という出現順位だと考えるのが妥当であろう。

しかしその反面、両者は入れ替えが可能である。例えば、例 33 は、「キャアキャア元気よく走り回っていました。」のように入れ替えることができる。このことから言えば、二つの修飾成分はほぼ同じ位置を占めて、同レベルで述語を修飾していると考えられることもできる。

5. 各種連用修飾成分の出現順位について

これまで考察してきたことを整理すると、各種連用修飾成分の出現順位は以下ようになる。

言表態度修飾語→時の状況成分→時間関係

→頻度→程度量→様態→結果

そこで問題になるのは、連用修飾成分同士のこうした出現順位は何に基づくものかということだが、それは各成分間の機能の違いに起因すると考えられる。以下、このことについて、詳しく見ていくこととする。

35. 昔の暮らしについて、もっと具体的に知りたかったです。

この例は、昔の暮らしについて「知りたいたい」という事柄を、まず結果の修飾成分「具体的に」が説明するという関係で、「具体的に知りたいたい」という事柄が描き出される。その次の段階で、そうして成立した「具体的に知りたいたい」という事柄全体に対して、その事柄に対する程度を示すという関係で程度量の修飾成分「もっと」が結びついている、と考えられる。つまり、そのような両者の機能の違いがこの出現順位をもたらしているのである。図示すると、以下のような構造になる。

もっと→具体的に→知りたいたい

ただし、先にも触れたとおり、連用修飾成分の出現順位には、もう

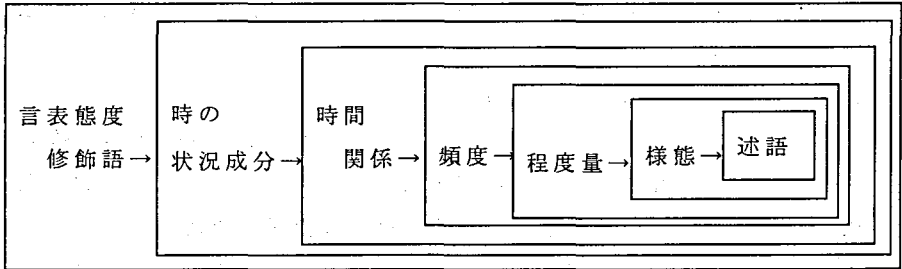
一つの別の原理が作用することがある。成分の長さという要因が、成分の出現順位を変えることがあるのである。

I. 周りを見回しながら、しばらく考えました。

II. ときどき耳をひくひくさせながら、テントのかげの箱の中で、一日じゅうねむっていた。

例 I と例 II は、ともに様態の修飾成分が前に位置し、時間関係の修飾成分が後に位置している。これは成分の機能による出現順位ではなく、成分の長さによる出現順位の変化だと考えてよい。

さてそこで、出現順位と機能との相関の問題に戻ると、各種連用修飾成分の出現順位と、その機能との関係は、以下のように整理することができる。



ここで注目されるのは、佐伯(1975)の所論である。佐伯氏は、独自の方法で連用修飾成分のかかり領域(かかる領域の大きさ)の数値化を行っている。(ただし、佐伯氏は連用修飾成分だけでなく、他の成分も検討の対象にしている。)つまり、かかり領域が大きいものほど外側(つまり、前に)に位置するわけであるが、それが本研究で指摘したこととほぼ一致するのである。

佐伯氏の成分族による出現順位は以下のように整理できる。なお、()は領域点を示す。領域点が高いほど、かかり領域が大きく、より外側に位置する。

評釈 → 時(名) → 程度 → 時間的情態 → 情態 → 結果
 (26.0) (12.8) (8.1) (4.3) (2.7) (0.02)

そこで、本研究と佐伯氏の出現順位を比較してみると、一部に相違

もなくはないが、おおよそは一致していることが分かる。

〈本研究での出現順位〉

言表態度修飾語→時の状況成分→頻度→程度量 →様態→結果

〈佐伯氏による出現順位〉

評釈 → 時(名) → 程度 → 時間的情態 → 情態→結果

ただし、佐伯氏は「程度」の成分族が「時間的情態」の成分族より前に位置すると結論しているが、本研究では「時間関係の修飾成分」が「程度量の修飾成分」よりも前に位置する。この点については、今後なお研究を進める必要がある。

【参考文献・使用教科書】

- ・北原保雄(1981)『日本語の世界 6』(中央公論社)
- ・北原保雄編『講座 日本語と日本語教育第 4 巻 日本語の文法・文体(上)』(明治書院)
- ・佐伯哲夫(1974)『語順と文法』(関西大学出版・広報部)
- ・佐伯哲夫(1975)『現代日本語の語順』(笠間書院)
- ・高橋太郎他著『日本語の文法』(2005年 ひつじ書房)
- ・仁田義雄(1983)「動詞に係る副詞的修飾成分の諸相」(『日本語学』2 巻 10号)
- ・仁田義雄(1993)『日本語要説』(工藤浩他著 ひつじ書房)
- ・仁田義雄(2000)『日本語の文法 3 モダリティ』(岩波書店)
- ・仁田義雄(2002)『副詞的表現の諸相』(くろしお出版)
- ・矢沢真人(2000)『日本語の文法 1 文の骨格』(岩波書店)
- ・矢沢真人(2003)『朝倉日本語講座⑤ 文法 I』(朝倉書店)
- ・光村図書出版株式会社(2005)『こくご一(上) かざぐるま』
～『国語六(下) 希望』(宮地裕ほか著 光村図書出版株式会社)
- ・東京書籍株式会社(2003)『あたらしいこくご 一上』
～『新しい国語 六下』(角野栄子・倉持保男・西本鶏介・本堂寛ほか著 東京書籍株式会社)

(ももせみさと 名古屋市立福春小学校)